令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった
課題と学力向上に向けた取組

教科	理科

品川区立京陽小学校

【学校全体の結果】
・目標値と比較して上回っているのは第4学年、第6学年、同程度なのは第5学年である。
・どの学年においても実験・観察した結果を、比較・考察することにやや苦手な傾向がある。
・第4～5学年では、理科学習に必要な用語や、用具・用品等の正しい使用方法について理解を深める必要がある。
・タブレットPCを活用した課題を宿題として継続的に取り入れたり、年度末に復習の機会を設けたりしたことが今回の結果につながったと考えられる。今後も、学習内容の定着を図るため、タブレットPCを効果的に活用した取り組みを継続する。

【第6学年】

1　概要		全体の正答率は目標値を上回る結果である。基礎・活用、領域別正答率のどの項目も目標値を上回ってはいるが、〈活用〉〈思考・判断・表現〉は同等程度となっている。
2　課題と取組	①課題	問題種別でも見ると、「ふりこのきまり」だけが目標値を下回る結果であった。
	②原因	5年生最初の単元で条件制御の考え方が定着していないことに加え、振り子の条件を一つずつ比較しながら考察する力や、実験結果から規則性を見い出す力に課題がある。
	③方策	条件制御を意識した実験活動を充実させ、結果を比較・考察して規則性を説明する学習を継続的に行う。

【第5学年】

1　概要		全体の正答率は、目標値をわずかに下回っている。 観点別に見ると、活用の正答率が目標値を下回っているが、他は目標値と同等である。
2　課題と取組	①課題	内容「自然の中の水」の『空気中の水蒸気が水になることを何というか』、についての正答率が目標値を大幅に下回っている。
	②原因	理科用語の定着が低い。学習時は覚えていても、時間が経つと忘れてしまう。
	③方策	理科用語を学習する際は、ノートに書かせ視覚的な情報を与える。また、習熟の問題を繰り返し行うことで定着を図る。2学期より学習アプリを活用し、定期的に復習を行う。

【第4学年】

1　概要		全体の正答率は、目標値を上回る結果となっている。観点別にみると、活用の正答率が目標値とほぼ同様だが、その他は上回っている。
2　課題と取組	①課題	「虫眼鏡の使い方」の問題において、正答よりも誤答が多かった。
	②原因	「使い方の理由」の理解が不十分である。
	③方策	使い方の理由を再度説明するとともに、虫眼鏡を使う機会を多く設け、2学期末までに正しい使い方を指導する。 虫眼鏡に関わらず、理科用具全体において機会を設け、使い方を丁寧に指導する。